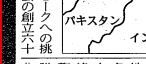
（1）　明治20年創刊　第37842号　（第3種郵便物認可）

上毛新聞社
発行所（〒371―8666）
前橋市古市町1―50―21
上毛新聞社
電話 市外局番（027）
（編集）251―3333（広告）251―9944
（販売）251―3131（事業）251―9950
（印刷）251―6955（出版）251―9966
（ファクシミリ）251―2699（電送）251―9984
（総務）251―9977（総合）251―9911
© 上毛新聞社 2000年

前橋山岳会 ブロード・ピーク（8051メートル）登頂

名塚隊長 8000メートル級9回成功 現役で日本最多

前橋山岳会（小泉俊夫会長）に九日までに入った連絡によると、パキスタンのブロード・ピーク（八、〇五一メートル）に挑戦していた同山岳会の登山隊名塚秀一隊長らが三人＝が先月二十九日、登頂に成功した。名塚隊長は今回の成功で、八〇〇〇メートル級登山ではサガルマータ二回を含む「八座九回」となり、生存する日本の登山家では最多の記録を達成した。



ブロード・ピークへの挑戦は、同山岳会の創立六十周年記念事業として行われた。県内の単独山岳会が八〇〇〇メートル級の登頂に成功したのは初めて。

八日夜、ふもとの登山基地の町・スカルドに戻った名塚隊長＝前橋市＝から、小泉会長のもとへ電話で連絡があった。副隊長の松田龍彦さん＝高崎市＝と隊員の久保田晋さん＝三七歳＝前橋市＝は、天候などにスカルドに到着、十九日に七年、ガッシャーブルムⅠ峰とガッシャーブルムⅡ峰とともに登頂に成功したパキスタン・カラコルム山域にそびえ立つ高峰の一つ。

計画では、登山隊はイスラマバードから六月十七日からふもとの氷河に入り、二十九日にベースキャンプ（BC、四九五〇メートル）を設営、先月二日から本格的な登山活動に入り、C1（五七五〇メートル）、C2（六一三五メートル）、C3（六八〇〇メートル）、C4（七四〇〇メートル）と順次設け、主峰へのアタックの機会を待つことになっていた。

予定では月二十二、二十三日には登頂のはずだった。だが、現地からの情報によると、悪天候で行動が

登頂に成功したブロード・ピーク。左奥はK2

関係から登頂は見送ったという。県内の山岳会からは、カラコルム登山隊が一九九七年、ガッシャーブルムⅠ峰とガッシャーブルムⅡ峰に登頂、カラコルム山域キスタン・カラコルム山域に登頂した例がある。

プロード・ピークは、県内の山岳会からは、カラコルム登山隊が一九九七年、ガッシャーブルムⅠ峰とガッシャーブルムⅡ峰とともに登頂に成功したパキスタン・カラコルム山域にそびえ立つ高峰の一つ。

計画では、登山隊はイスラマバードから六月十七日からふもとの氷河に入り、二十九日にベースキャンプ（BC、四九五〇メートル）を設営、先月二日から本格的な登山活動に入り、C1（五七五〇メートル）、C2（六一三五メートル）、C3（六八〇〇メートル）、C4（七四〇〇メートル）と順次設け、主峰へのアタックの機会を待つことになっていた。

予定では月二十二、二十三日には登頂のはずだった。だが、現地からの情報によると、悪天候で行動が

「みなさんにお礼言いたい」

前橋山岳会に登頂成功の連絡が入ったのは、八日午後九時前。連絡を受けた小泉俊夫会長＝前橋市亀里町＝は「百パーセントは難しいなかったが、登ることができて良かった。多くのみなさんに物心両面にわたって応援していただき、お礼を言いたい」と感想を語った。

同会は創立六十周年記念事業の一環として、精鋭隊を送った。小泉会長は「二人が登れなかったのは残念だが、今回の経験を次回に生かすればよい」と話した。

登頂は、故田中昇氏（沼田市出身）が達成した「九座十二回」が記録に残っていよいよ遅れ、二十九日の登頂になったらしい。

県山岳連盟の八木原圀明理事長は「単独の山岳会で よく登った。早く無事に帰ってきてほしい」と登頂を

ただちた。

八〇〇〇メートル級登山の最多

県産材を利用するよう、県産材の利用を県内関係部局の連絡会議で申し合わせた。

会議では山口部長が出席者に対して県産材の利用を呼びかけ。また、木材利用の状況や意点個所、今後の可能性、問題点などについて実態を把握するための調査を実施することなどを、第四十九回全国植樹祭

県は、同会議に設けられた十一部局三十六所属による「県産材利用の促進に関する庁内関係部局の連絡会議」が九日、県庁で開かれ、県が実施する県土木工事や公共施設の各課に協力を依頼。調査結果